

氏名	服 部 旬 里
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 2422号
学位授与の日付	平成14年9月30日
学位授与の要件	医学研究科内科系小児神経学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	中心・側頭部に棘波をもつ良性小児てんかんと非定型良性部分 てんかんにおける高次脳機能障害の検討
論文審査委員	教授 黒田 重利 教授 小川 紀雄 教授 五味田 裕

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

中心・側頭部に棘波をもつ良性小児てんかん (benign childhood epilepsy with centrottemporal spike : BCECT) とその特殊型と考えられる非定型良性部分てんかん (atypical benign partial epilepsy of childhood : ABPE) について、高次脳機能障害の有無を包括的心理検査を複数用いて検討した。

両群ともに全般的知能に問題は認められなかった。BCECT 群においては、言語学習能力診断検査の「ことばの表現」と「数の記憶」の成績が不良であった。回答に言語機能を必要とする他の検査の結果を総合すると、要素的な言語機能の障害ではなく、柔軟性、流暢性、作業記憶など複雑な情報を処理する実行機能系の障害によることが推測された。ABPE 群のプロフィールも BCECT 群のそれに類似し、共通した認知機能障害の存在が推測された。

#### 論 文 審 査 結 果 の 要 旨

中心・側頭部に棘波をもつ良性小児てんかん (BCECT) と非定型良性部分てんかん (ABPE) は両者とも知能予後は良好で、精神機能は保たれるとされている。今回これら症例の高次脳機能障害の有無に関して、多数の心理検査を用いて検討した。その結果、両群では言語学習能力診断検査の「ことばの表現」と「数の記憶」が不良であった。しかし基本的な言語機能は保たれており、情報処理を行う実行機能系の障害が推測された。BCECTとABPEにおいて言語学習能力低下をはじめて指摘し、重要な知見を得た価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。